

# 牛久：学校周辺に見る自然

第19号 牛久自然観察の森

2016年9月11日発行

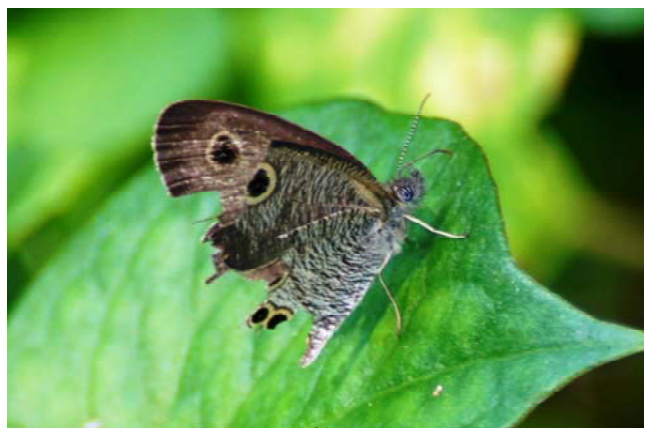
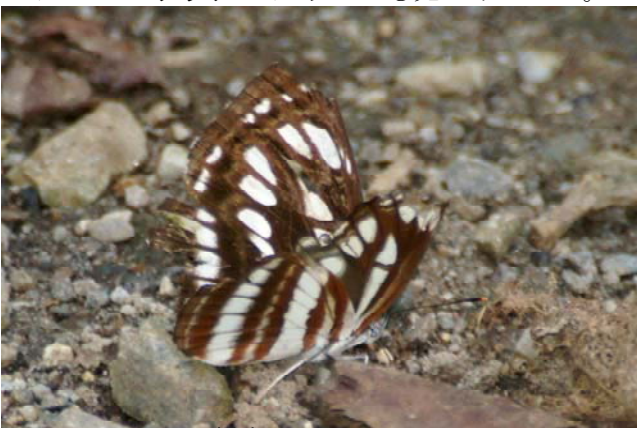
＜ 夏の終わりに、牛久自然観察の森を歩く ～ ③ 花とチョウ ＞

9/2、夏の終わりに歩いた牛久自然観察の森、今回は花とチョウたちです。



ノハラアザミ(左)と、その蜜を吸うメスグロヒョウモンのオス(右上下)。

秋の花の代表の一つ、ノハラアザミが咲いていました。日当たりのよい野原や、林のふちによく見られるアザミです。花の下にいる虫は、ヨコバイの仲間の幼虫。茎から汁を吸っているのでしょうか。どこからか、チョウが飛んできてとまりました。ストローを伸ばし、花の蜜を吸っています。ヒョウがらもようはタテハチョウ科のヒョウモンチョウの仲間。似ているけれど、よく見ると羽の模様も少しずつ違います。これはメスグロヒョウモンのオス。メスは黒っぽい色をしているので、この名がつけました。タテハチョウ科の仲間なので、足は一見4本に見えますね。同じタテハチョウ科では、他にコミスジとヒメウラナミジャノメも見かけました。



タテハチョウ科の仲間コミスジ(左)と、ヒメウラナミジャノメ(右)。どちらも足は一見4本に見える。



キアゲハ(左)と、ヤブガラシの蜜を吸うジャコウアゲハ(右)。

アゲハの仲間では、キアゲハとナミアゲハ、ナガサキアゲハ、ジャコウアゲハを見かけました。ジャコウアゲハはかなり長い時間ヤブガラシの蜜を吸って周りを飛んでいたもので、動画も撮れました。変わったチョウで、幼虫は毒草のウマノスズクサを食べて体内に毒をたくわえるので、成虫も鳥などの天敵に食べられにくいのだそうです。それにしても、なぜジャコウアゲハはこの毒にやられないのでしょうか？フグの場合と少し似てますね。



いろいろな花の蜜を吸う、オオチャバネセセリ。左のクズには、頭がかくれるくらいにして…。

観察舎手前の「クズのトンネル」では、オオチャバネセセリやイチモンジセセリ、キタキチョウが、いろいろな花を次から次へとまわって盛んに蜜を吸っていました。セセリチョウの仲間はガとよくまちがえられますが、ガとチョウはじつはどんな分け方をしても例外があり、区別できないくらい似ていると言ってもいいでしょう。区別せずに同じ言葉で呼んでいる国も多いそうです。

最後に、黄色い花が目立っていたオミナエシとキクイモ。そしてネイチャーセンター前で実をつけていたカラタチです。オミナエシは秋の七草のひとつとしても知られていますね。【理科支援員:宮内】



黄色い花を咲かせるオミナエシ(左)とキクイモ(中)。実をつけていたカラタチ(右)。